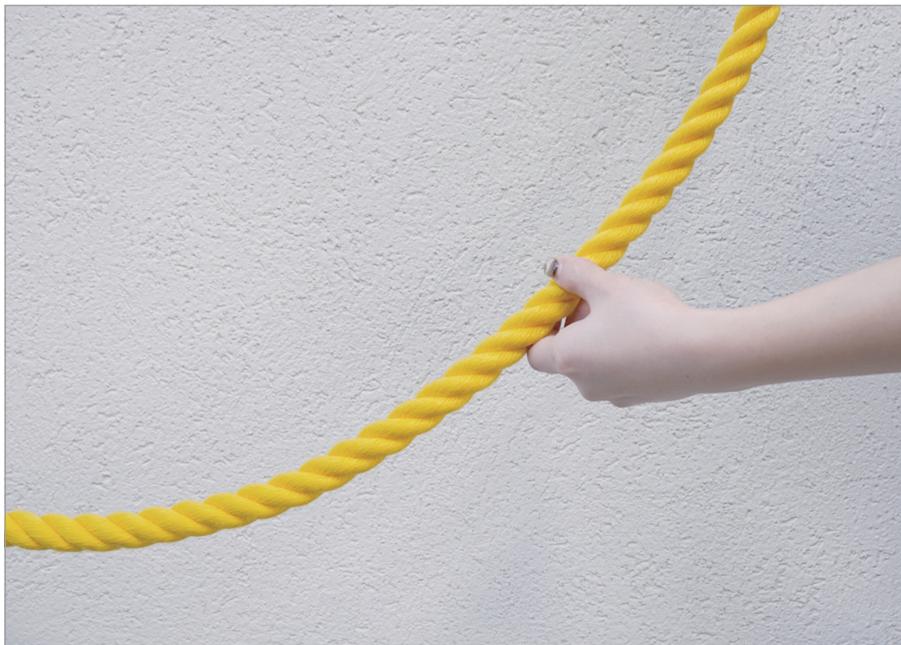


No. 20250575

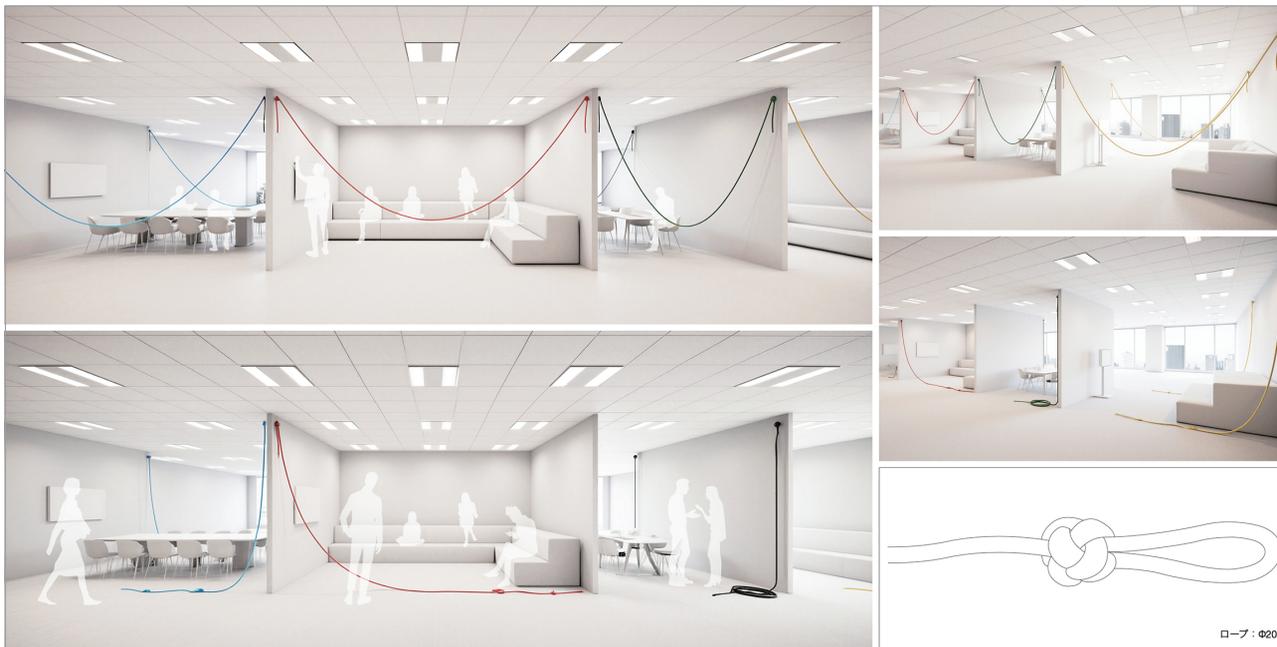
記憶の縁(ふち)



わたなべ ひろみち
渡邊 宏道



デザイン画



ロープ：φ20
空間イメージ図

素材

ロープ

想定する空間

オフィスのミーティングスペース

デザインコンセプト

一本の縄が、私たちの記憶を呼び起こす。

張られた縄には、神社のしめ縄のような「結界」の気配が宿り、空間は静まり、意識は一点へと集まっていく。床に垂れた縄は、縄跳びがまだ始まっていないときの、あの緩く開かれた日常の記憶を思い出させる。その瞬間、場は軽くなり、誰でも出入りできる余白が生まれる。

この会議室では、境界は固定されない。

縄が張り、緩むことで、空間は「集中」と「開放」という二つの状態を行き来する。

「面」は「線」の集合体であると捉えると、このミニマルでありながら、確かな意味を持つ一本の縄による境界は、人の記憶と空間の関係を、軽やかなデザインによって成立させる。

境界とは、壁ではなく、人の意識と体験によって立ち上がる現象である。